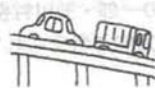


新しい道路をつくる前に、対応すべきことがたくさんあります。

関越自動車道、インターチェンジが開通しました。役場庁舎への進入路(総額12億円)も、今年度完成します。



嵐山町・滑川町には、図書館の前を通る道路を川島地区～滑川町～つきのわ駅に延ばす計画があります。

新しい道路の建設が、国・地方の借金財政、少子・高齢化社会を解決する方法になるでしょうか。



ごみ焼却は、いつまで続けることができるのでしょうか。

焼却炉を建設すると40億～70億円必要です。

●合併の枠組みのもとである小川地区衛生組合はごみとし尿を3町3村で負担金を出し合って一緒に処理する事務組合です。

◎平成14年、17億円で東小川団地に隣接するごみ焼却炉をダイオキシン対策で改修しました。1日60トン焼却できます。昭和51年建設で27年間使っています。東小川団地との協定で建替えはできません。老朽化・ごみの増加でいつまで焼却できるか？生ゴミの有効活用とごみ減量化を考えなくては？

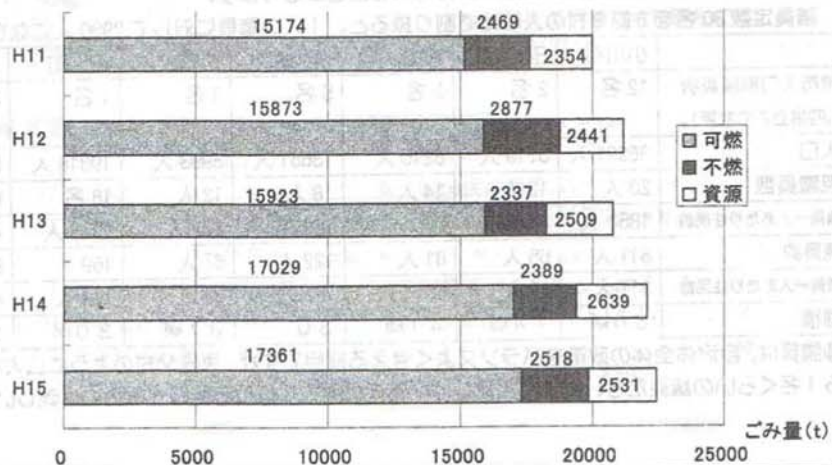


●町民中心で環境基本計画を作った小川町では、

家庭ごみだけは焼却ごみは平成14年6440tが15年6235tに、不燃ごみは平成14年761tが15年738tに、資源ごみは1369tが1300tに減っています。

◎国は、ごみは広域処理が安上がりとして、100トン以上の焼却炉を新築する場合のみ、補助金をだします。国の補助対象だと40億～70億円の建設費です。新しい建設場所をみつけ、土地購入も必要になります。ごみ焼却に税金を投入するのは仕方ないのですが、焼却しない処理に取り組むことにも本気になって予算を使うべきでは……

ごみ量の推移



子どもを育てやすいことが、若い世代・子育て世代に必要なことです。

医療費助成だけでなく、子育て環境の充実も。

希望しても、町立幼稚園には入れない状態です。



希望しても、保育園も、空くまで八園できません。

町立幼稚園入園希望者数(定員35人)

平成8	57
平成9	53
平成10	61
平成11	57
平成12	43
平成13	73
平成14	63
平成15	52
平成16	67

●3つの保育園の定員数は207人です。4月に保育園に入園できないで待っているこどもは、平成14年は15人、平成15年は7人でした。

◎公立保育園がないのですから、町立幼稚園を、幼稚園でもあり保育園でもある形にして人数を増やす方法が解決につながります。

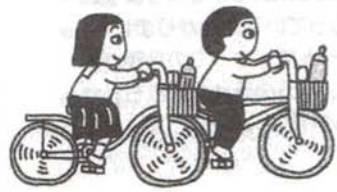
小中学校の子どもも減っています…学校へのボランティアは

●こどもにわかりやすい授業を進めるための少人数学級は、嵐山町が教師を雇用するしかないのですが・・・塾に行くのが普通になっています。塾に頼る学校教育は不平等です。授業がわからないままになっているこどもは、学校がつまらないだろうと思います。

◎先生も少なくなり、中学生の部活動を続けていくのが、難しそうです。

●授業がわからない子をお手伝いするボランティアや、中学部活動の指導のボランティアの制度化も地域で本格的に考えていかなくては。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計		1年生	2年生	3年生	合計	
菅谷小	101人	95人	79人	89人	91人	93人	548人	菅谷中	97人	108人	111人	319人	
鎌形小	6人	6人	8人	4人	9人	10人	43人		玉ノ岡中	73人	68人	95人	237人
志賀小	54人	45人	49人	38人	34人	37人	259人	七郷小		20人	35人	14人	69人
合計	181人	178人	146人	156人	169人	173人	1018人				171人	176人	204人



交通事故だけでなく犯罪も心配な通学です。

玉ノ岡中学では、全員自転車通学できるように学校の自転車置き場が整備されています。

菅谷中は、自転車置き場の整備が十分ではありません。帰りが遅くなることもあるし一人で帰ることもあるので、全員自転車通学ができるように駐輪場整備も必要です。